

アタラント号 (1934)

L' ATALANTE

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 フランス
色彩 B&W
時間 101分
初公開日 1991/11/15
公開情報 K U Z U I
リバイバル 2018/12/29 [アイ・ヴィー・シー] (4Kレストア版)

【解説】

90年にほぼ原型に近い形に修復された版（従って本篇の前に、そのいきさつの解説が若干つく）の公開によって、日本でもようやく一般に見られるようになったJ・ヴィゴの傑作である。アタラント号とは、ル・アヴールとその上流の田舎町を往復している船。その若き船長の新妻が都会の誘惑にかられ、パリに近づいた折りにこっそり抜け出すが、怒った夫は彼女を置いて出航する。しかし、愛妻なしの彼はまるで腑抜けで、急に川に飛び込み、彼女の幻影を見たりしている。一方、妻はひたたくりにあい、帰るに帰れず、同船している老水夫ジュール親爺（M・シモン）により、ようやく探し出される。話は俗なものだが、詩的で自由奔放な表現、キャラクターが際立つ肉体性の把握、溢れるユーモア……映画の官能が蒸気となって観客を包み込んでしまう、これは聖なる映画と言えるかも知れない。何度観てもはぐらかされ、不安なときめきを覚える。幼い子供と遊ぶのに似た、つき詰めようのない快樂を帯びた映画。M・シモンの醜い外見に惑わされてはいけない。彼こそが天使だ。

【クレジット】

監督 ジャン・ヴィゴ Jean Vigo
製作 ジャック＝ルイ・ヌネーズ
脚本 ジャン・ジェミール
撮影 ボリス・カウフマン Boris Kaufman
音楽 モーリス・ジョーベール Maurice Jaubert
出演 ディタ・パルロ Dita Parlo
ジャン・ダステ Jean Daste
ミシェル・シモン Michel Simon
ルイ・ルフェーブル